

災害の記録

市内各地の被害状況と経過の概要は、次のとおりです。

9月1日	
15:49	大雨注意報、洪水注意報が発表される
19:16	洪水注意報が解除される。大雨注意報は継続
9月2日	
4:10	洪水注意報が発表される
4:50	大雨警報が発表される
14:00	国道313号(成羽町佐々木、川上町領家地内)が崩土のため、全面通行止めとなる
14:39	洪水警報が発表される
15:37	土砂災害警戒情報が発表される
17:50	土砂災害警戒情報が解除される
18:15	洪水警報が解除。引き続き大雨警報と洪水注意報が継続
21:54	大雨警報、洪水注意報が解除される。大雨注意報は継続中
9月3日	
10:20	大雨警報、洪水注意報が発表される
18:10	国道313号(成羽町佐々木、川上町領家地内)の通行止め解除
9月4日	
7:42	土砂災害警戒情報が発表される
8:00	災害対策本部を設置
8:36	洪水警報が発表される
9:35	広瀬・河内谷地区に避難勧告を発令
9:40	国道180号(松山地内)が冠水のため、全面通行止めとなる。国道313号(落合町福地)が崩土のため、全面通行止めとなる
12:55	広瀬・河内谷地区に避難指示を発令
15:59	土砂災害警戒情報が解除される
18:00	広瀬・河内谷地区の避難指示を解除
19:18	洪水警報が解除。引き続き大雨警報と洪水注意報が継続
19:45	国道180号(松山地内)の通行止め解除
22:59	大雨警報が解除される。大雨注意報は継続中
9月5日	
10:15	大雨注意報が解除される
12:00	災害対策本部を廃止
9月6日	
3:15	国道313号(落合町福地)の通行止め解除

災害の記憶

この災害は、被害と共に数々の教訓を私たちに残しました。この経験を今後に生かし、一人一人が防災意識を持たなければなりません。一方、人の温かさや支えあう気持ちも、もたらしてくれました。災害時の体験を紹介します。



▶ 平日にもかかわらず、たくさんボランティアが集まり、清掃作業を行った
(川上町地頭・9月6日)

人の優しさと温かさをもらった1週間

9月2日は始業式でしたが、早朝に大雨警報が発表されたため、休園にしていました。昼過ぎから雨音が大きくなり、そばを流れる西谷川があふれそうに。見る見るうちに、園舎の周りが海のようになり孤立してしまいました。園は休みでしたが、同じ建物内にある児童館にいる子どもたちにとっても心配でした。折しも、地元の大塚組さんがフェンスを破って橋を架け、避難できるようにしてくださりました。雨が小康状態になった夕方からは、消防団の皆さんが土のうを積み、堤防を作ってくれました。

次の日、水は引きましたが、周囲は泥だらけで、ブランコや鉄棒などの遊具は流され、砂場は大きな石だらけで、どこから片付けていいか分からない状態でした。雨が止んでから保護者と学校関係職員で泥を取っていく



川上幼稚園 園長 難波 真琴 さん

ことからは開始。このことを聞きつけた、高梁青年会議所、高梁市青年経済協議会、行政・学校関係の皆さん、100人以上が、5日から8日に掛けて側溝の泥を取り除き、ほうきで掃いてきれいにしてくれました。

おかげで9日には、始業式を行うことができ、子どもたちの笑顔を見ることができました。運動会も予定通り開催でき、子どもたちから「ありがとう」とお礼が言えました。卒業生から、「何かできることはないか」と連絡があったり、近所の女子高生がウサギを預かってくれたり。差し入れもたくさん頂きました。

災害に遭ったことは、とてもつらかったですが、皆さんの優しく温かい気持ちをたくさんもらいました。本当に感謝しています。ありがとうございました。



▲約100人の関係者が参加して泥を取り除いた(9月8日)

災害時は、あらゆることに配慮した対策を

9月4日午前9時40分、国道313号(落合町福地地内)が崩土により通行止めになりました。1日に1万台以上の自動車通行量がある主要道。通勤などへの影響は、計り知れないものがありました。

昼ごろから迂回路を探す自動車も狭い県道に集中し、前にも後ろにも行けない状態になっていました。どうにかしないといけないと思い、石井雅之さん(松原町松岡)と一緒に交通整理を始めました。引つ切り無しに自動車が走り、1年間の台数が通った感じでした。交通整理を終えたのは、通行量が落ち着いた午後7時ごろ。その後、市が迂回路の案内看板を設置してくれました。

県や市には、迂回路の案内はもちろん、通行量が増えることで危険が増す通学路の安全確保など、あらゆることに配慮した対策を考えてほしいと思います。



いりえ 義昭さん (松原町春木)

命を守るために早めの避難を

小さな子どもがいるので、早めに自主避難をしましたが、消防団の避難の勧めがあっても避難せずに自宅に残った方がほとんどだったようです。

「今まで何もなかったから」と考えやすいため、高齢化が進む高梁市では、避難勧告や自主避難を促すのではなく、即、避難指示を出すべきだと強く思います。それが不安を和らげることもつながると避難して実感しました。(中略)

市は気象警報や防災情報、道路通行止め情報などをケーブルテレビ、ホームページ、電子メールで市民の皆さんにお知らせしています。今後の防災行政の参考にすため、メール配信サービスをご利用の皆さんにご意見をお聞きしましたので、その概要をお知らせします。

意見件数は、34件(9月末現在)。最も多い意見は、「通行止め情報が配信され参考になったが、道路名だけでは分かりにくい。地図などで表示し、迂回路も示してほしい」でした。分かりやすく、迅速な情報提供に努めていきます。また、体験談を紹介します。

避難状況

地域名	勧告等・自主区分	避難者数	
		世帯数	人数
高梁	勧告等	11	20
	自主	10	17
成羽	自主	7	7
川上	自主	7	9
備中	自主	6	19
計		41	72

家屋等被害状況(9月2日~4日分)

地域名	全壊	半壊	一部損	
			破損	土流入
高梁	2	1	2	13
有漢				2
成羽			4	4
川上			9	33
備中		1	2	
計	2	2	17	52

公共施設等被害状況(9月2日~4日分)

種別	件数
公共施設	川上児童館、川上幼稚園、川上給食センター(浸水)など23件(被害額:5,681万円)
市道	497件(被害額:5億5,905万円)
河川	183件(被害額:3億515万円)
農林施設等	290件(被害額:3億4,363万円)

各観測所の雨量(8月30日~9月4日)

観測所	1時間雨量		累計雨量
	最大	最小	
高梁	21 ^{ミリ}		285 ^{ミリ}
有漢	20 ^{ミリ}		262 ^{ミリ}
成羽	57 ^{ミリ}		350 ^{ミリ}
川上	31 ^{ミリ}		274 ^{ミリ}
備中	63 ^{ミリ}		318 ^{ミリ}

※気象庁、県総合防災情報システムより



▶ 氾濫した西谷川の堤防に土のうを積み込む消防団員ら(9月4日)